

前回委員会(2005.2.5)以降の状況報告

1. 状況報告-----	1
2. 結果報告 -----	2
・第39回委員会(2005.2.5) 結果報告	
・第42回運営会議(2005.2.19)	

1. 状況報告

第38回委員会

- ・2月5日(土)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料2ページをご参照下さい。

第42回運営会議

- ・2月19日(土)に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料4ページをご参照下さい。

第 39 回委員会 (2005.2.5 開催) 結果報告		2005.3.7 庶務発信
開催日時:	2005 年 2 月 5 日 (土) 16:03~18:55	
場 所:	みやこメッセ 1 階 第 2 展示室 D	
参加者数:	委員 23 名、河川管理者 (指定席) 19 名、一般傍聴者 (マスコミ含む) 127 名	
<p>1. 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員の互選により、流域委員会委員長は寺田委員に決定した。また、委員長の指名により、委員長代理は三田村委員に決定した。 委員の互選により、琵琶湖部会長は中村委員、淀川部会長は今本委員、木津川上流部会長は川上委員、猪名川部会長は池淵委員に決定した。 地域部会長の指名により、木津川上流部会長代理は村上哲夫委員、猪名川部会長代理は村上興正委員に決定した。琵琶湖部会長代理と淀川部会長代理については、次回の委員会までに決定する。 各地域部会の委員構成が承認された。 これまでと同様に運営会議を開催することが決定した。 <p>2. 開会の挨拶、委員の紹介</p> <p>審議に先立って、近畿地方整備局長より挨拶がなされた後、庶務より委員の紹介がなされた。</p> <p>3. 審議の概要</p> <p>委員会の目的・任務等の説明</p> <p>河川管理者より、資料 1「新委員会にかかわる資料」を用いて説明がなされた。</p> <p>委員長の選出</p> <p>委員の互選により、流域委員会委員長が「1. 決定事項」の通り、寺田委員に決定した。</p> <p>新旧委員長の挨拶</p> <p>芦田前委員長より、旧委員会委員の思い等について、挨拶がなされた。その後、寺田委員長より就任の挨拶がなされた。</p> <p>(芦田前委員長の挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境の豊かで安全な川を作ろうという共通の理念を持って、4 年間の委員会活動をやってきた。河川管理者もこれに応えてがんばってやってこられた。委員会では、徹底的な情報公開、一般からの意見聴取、委員自身による運営と意見書作成等をしてきたが、必ずしも良い面ばかりではなかった。そういった改善点や委員の思いについて、資料 4-8「委員会活動の総括に係わる委員会の意見」としてまとめているので、新委員会にはこれを継承して頂きたい。ダムと琵琶湖水位操作の総合的な検討に関しても、中間とりまとめを提出しているので、引き続き、検討して頂くようお願いしたい。 <p>(寺田委員長の挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会にはたくさんの仕事が残されている。若輩者の私がどの程度役割を果たすことができるかわからないが、一生懸命やりたい。退任された委員には感謝を述べたい。そして、新しく委員になられた 13 名には新しい活力を注ぎ込んで頂き、流域委員会をより内容の濃いものにしていくため、ご協力をお願いしたい。試行錯誤を経た委員会だったが、「淀川モデル」と称せるような新しい公共事業計画の形と住民意見の反映方法について、新しい方向付けを示し得た。しかし、課題も多くある。地域部会やテーマ別部会、WGといったこれまでの検討方法がそのままではよいとは思っていない。活性化できるような新しい方法が必要だ。住民参加についても、委員会が自ら提言したものを十分に検証できていないし、委員会が積極的に住民の意見を十分に聴いて吸収することができたとも思っていない。皆さまのご意見を聴きながら、具体的で的確な住民参加の方式を示し、住民意見の吸収を実践していきたい。 <p>委員会の体制について</p> <p>「1. 決定事項」の通り、各地域部会の委員構成が承認された。なお、部会運営に応じて、委員追加・変更</p>		

等の柔軟な対応をしていくことが確認された。その後、委員の互選により、「1. 決定事項」の通り、各地域部会長、部会長代理が決定した。

今後の委員会の進め方について

部会構成について、意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）

- ・旧委員会では、地域別部会、テーマ別部会、WG等の体制で審議をしてきたが、別の視点からの検討も必要だと思っている。重要な課題を検討するためには、WGやプロジェクトチームといった方法もある。体制については、次回委員会で規約改正を行い正式に決定するが、委員のご意見を頂きたい（委員長）
- ・テーマ別部会は作った方がよいと思うが、イメージがわからない。意見を募集してはどうか。
- ・今後、流域社会システムという概念が必要になってくる。流域全体を1つの社会システムとして見た時にどのようにして計画からマネジメントへ、マネジメントから計画へ返していくのか。そういうテーマが作ればよいと思っている。
- ・事業評価の方法については専門的な場で審議する必要があるのではないか。
- ・旧委員会のテーマ別部会は、少し時間の無駄だったと思っている。ダムWGは環境・治水・利水・住民参加まで含む横断的なテーマであり、1つの部会として立てる必要性もあるのではないか。
- ・テーマに分けて議論する段階は終わったと思うが、「総合的」を強調しすぎると焦点が絞れなくなる。少しテーマを絞った総合性のある部会が必要だ。ダムについては、WGではなく、部会として開催し、審議の透明度を上げるべき。また、琵琶湖水位操作については、部会として取り上げるべきではないか。
- ・4つの地域部会がまずありきという話だが、たとえば、淀川の生物のために河川敷の冠水頻度を上げるためには、琵琶湖水位や洗堰での水位操作が関係してくる。下流の淀川部会だけでは解決できない。地域別部会についても、テーマ別部会同様に、ダイナミックに考えてみるべきではないか。
- ・基礎案の個別事業の評価をするためには、地域の事情を知っていることが重要。また、地域別部会はこれまでの委員会活動の中でかなり有効に機能してきたという判断の元で4つの地域部会が決定された。淀川と琵琶湖の関わりや琵琶湖水位操作については、新たな部会を提案して頂ければよいだろう。

委員会の経過、新委員会の当面の課題について

河川管理者より、資料4-1「委員会の経過について」とスライドを用いて説明がなされた後、今本委員より、これまでの流域委員会の歩みについて説明がなされた。

- ・送付されてきた資料を一通り見たが、治水の現状について、よくわからなかった。各河川が現状でどの程度の洪水や台風にも耐えられるのか。治水レベルの現状について教えていただきたい。

治水、利水、環境の現状に関する資料は膨大にあるので、新規委員には早急に配付したい。また、新規委員には資料や説明が十分には共有できていない面もあるため、河川管理者による説明会を開催させて頂きたい。説明会の開催に関しては、運営会議で決めて頂きたい（河川管理者）

- ・現地視察や現地見学も開催して欲しい。

4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者3名より発言があった。

- ・委員にはもっと積極的に発言をして頂きたい。特に新規委員には抱負を伺いたかった。

新規委員には、次回委員会で抱負を語って頂きたいと思っている（委員長）

- ・部会の構成メンバーを早急に公開して欲しい。また、ダムの調査・検討がいつ出されるのか。委員は河川管理者に要求してほしい。

部会のメンバーに関しては、できるだけ早くHPで公開する。ダムについては、河川管理者の報告を待つのではなく、予想される問題を先取りして議論する必要があると思っている（委員長）

- ・委員会の体制に関して、一般傍聴者としての提案を庶務に提出すれば、議論の対象となるのか。

意見を出して頂きたい。参考にして、的確な検討ができるような体制を考えたい（委員長）

このお知らせは委員の皆様主に決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第 42 回運営会議（2005.2.19 開催）結果報告		2005.1.14 庶務発信
開催日時：	2005 年 2 月 19 日（土）10:00～13:20	
場 所：	カラスマプラザ 21 8 階 第 1 会議室	
参加者数：	運営会議委員 6 名（委員長、委員長代理、琵琶湖部会長、淀川部会長、木津川上流部会長、猪名川部会長） オブザーバー 2 名（委員） 河川管理者 3 名	
検討内容、 決定事項	<p>1．決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長代理に三田村委員に加え今本委員を指名し、3 名体制で各会に出席して状況を把握して効率的に進める。3 名体制で進めることは、次回委員会に報告する。 ・次回委員会では、4 部会の委員構成と分野が分かるものを配付して、確定した地域部会の委員構成の報告を行う。 ・委員会規約は、本日の審議結果を踏まえて、委員長と庶務が案を作成し、事前配付して次回委員会で規約改正を図る。 ・テーマ別部会は、住民参加部会、利水及び水需要管理部会を作り、どちらかに参加することとし、WG は個別に検討して第 41 回委員会までに決定する。どのようなWGをつくるかは、部会のなかでも検討していく。 ・勉強会は、早く実施する必要があるため、庶務と管理者で協議していくつかのプランをつくりアンケートをとって、実施に向けて動き出す。 ・次回委員会は、3 月 14 日（月）の 16 時～19 時とし、都合が悪いと答えている委員にも出席要請をする。 ・次回運営会議は、3 月 30 日（水）午前 10 時～12 時 30 分に開催する。 <p>2．審議内容</p> <p>（1）地域部会の委員構成確定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員構成で不十分であれば移動もあり得るが、4 部会で発足することは了解済みである。次回委員会では、委員構成と分野が分かるものを配付する。早急に決定したい（委員長） ・現委員会規約では、委員構成表を別表にしており、委員が変わるごとに改正が必要であった。部会の種類や構成は、委員会の承認事項であるが、規約には位置づけない。今後、部会の所属を変わりたい場合は、委員会で承認する。（委員長） ・木津川部会では、人数が少なく必要な専門知識を有する委員が不足している。 ・併せて、女性委員の件も検討いただきたい。 ・発足の最初から委員を追加という訳にはいかない。必要になった段階で、具体的な候補者をもって、管理者にお願いすればよい（委員長） ・委員の皆さんにはせめて半分は出席していただきたい。 ・今回は、委員数が 28 名なので全体委員会を活性化できる。全体委員会で議論する方向で考えたい（委員長） ・新しい委員を知らない。琵琶湖部会としては検討内容により部会長の負担が違うので、委員会までに、部会で相談したうえで副部会長を確定したい。 <p>（2）テーマ別部会、プロジェクト、WG の構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖水位の問題、淀川の維持流量の問題等、特定のテーマは、委員会の承認を得てWGによって実施するとよい。テーマによっては、少人数でやってもよいのでは。 	

- ・あまり多くのテーマを上げると、人数が少ないのにどうか。
 - ・テーマ別部会とWGはきちんと分けるべきである。住民参加部会は全体の問題であり、検証して進化したものを提案しないといけない。利水も水需要管理の具体的な検討を行っていない。ダム WG もテーマ別部会とすべきだが、そのなかで水位操作の問題もある。重要な問題を部会として、個別なものは、WGで検討したらどうか（委員長）
 - ・琵琶湖の場合はテーマ部会が重要である。利水や水需要管理はテーマ別に作ったほうがよい。
 - ・テーマ別部会を重視でよいがどうするか。住民参加、利水はよいが、他にどうするか案を出したほうが良い（委員長）
 - ・テーマ別部会の案を1つか2つ上げて、意見を求めてはどうか。集中するのはWGで、部会は残しておいてはどうか。
 - ・部会ごとの検討スケジュールも必要なので、地域別部会を開催して考えてもらったほうがよい。（委員長）
 - ・洗堰水位操作、ダムに頼らない水位操作の検討に絞ってはどうか。
 - ・テーマ別をつくって、必要に応じてWGをつくるとよい。
 - ・テーマ別部会は、住民参加部会、利水及び水需要管理部会を作り、どちらかに参加することとし、WGは個別に検討して第41回委員会までに決定する。どのようなWGをつくるかは、部会のなかでも検討していく（委員長）
 - ・新委員が多く参加しているので、共通認識が形成されていない。課題については、新委員に追いついていただく機会を設けて欲しい。
 - ・勉強会の開催について、管理者から申し出があった。運営会議での意見を聞いてから、新委員に知ってもらったほうがよいとのことである。実施の際には、ばらばらで実施することはなく、また、継続委員も知ってもらい、交流もしていただくという趣旨で作成してもらった（委員長）
- (3) 規約改正について
- 委員長が、規約改正案の説明を行いながら、内容の意見交換を行い、いくつかの箇所の修正を行うこととした。それを踏まえて、「1. 決定事項」のように進めることにした。
- (4) 第40回委員会の議事内容について
- ・自己紹介・抱負は1人2分で、最大30分で行う。庶務から各委員に紙で出してもらおうよう依頼する。
- (5) その他
- ・各委員が書いたものは、製本の必要はない。
 - ・HPで公開されていれば、よいのではないか。内容的には中間とりまとめである。新たな河川整備を目指してのリニューアルの必要はあるのではないか。現在のものはよくできており便利である（委員長）
 - ・案を作成して欲しい。
 - ・資料1-3は良い資料。これにつけることも考えられる。

以上

このお知らせは委員の皆様主に主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。